

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090200286		
法人名	有限会社ケアサービス平和		
事業所名	グループホーム平和		
所在地	群馬県高崎市飯塚町1301-1		
自己評価作成日	令和4年5月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和4年6月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

身体拘束「0」に向けて困難事例が発生した時には職員同士で意見を出し合い工夫しながら拘束をせずに気持ち良く過ごせる方法を話合います。お互いが笑顔で向き合い寄り添える関係を心がけていきます。又地域に密着した施設として近隣の方が気軽にお茶を飲みに来たり出入りがしやすく散歩に出たら声をかけて頂ける様な関係を区長、民生委員、近隣の方々の協力をお願いして今まで以上に強化していきたい。利用者様の健康管理の維持や心のケアも忘れず毎日のレクリエーションを行っていきます。

コロナ禍であっても感染状況を鑑み、個別に散歩や買い物、遠くのバラ園まで出かける等、屋内に閉じこもりがちでストレスを抱える利用者に少しでも楽しんでもらう支援をしている。同様に運営推進会議についても、開催中止が当然視され、閉鎖的になってしまうところを状況が許せば会議を開催することで日常生活の回復を図り、事業所の現状報告、活動報告を通して開かれた事業所運営に努める姿勢がうかがえた。また、今回の外部評価における家族アンケートについても全員から回答があり、利用者、事業所に対する関心の高さと家族と事業所、職員間に信頼関係が築かれていることがわかった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき家族のように向き合い不安や心配事も共有できる信頼関係を築きながらお互いが常に笑顔で過ごす事が出来るよう努力しています。	理念を忘れないよう共用空間に掲示している。利用者の笑顔、尊厳を大切にする理念に基づき、職員は工夫ある支援や提案により、身体拘束のない日々笑顔で過ごすケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にてボランティアによる慰問は中止となっているが近所へ散歩に出かけると声を掛けて頂いたり季節のお花や野菜を頂いて交流している。	コロナ禍によりボランティアの慰問等はないが、事業所前に住む人がハーモニカ演奏に訪れたり、散歩の時、地域住民と話をしている。また、季節の野菜を届けてくれる人と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域密着型連絡協議会発足の認知症相談窓口に登録し随時相談を受け付けている。またコロナ禍で開催できていないが、感染状況をみて開催出来る月は運営推進会議を通じ、区長、民生委員、安心センターの方々と施設での過ごし方、介護保険制度の事や、介護等の情報提供も行う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で開催できない月が多いが、開催できた月は施設での行事や日々の利用者様の様子を把握して頂いたり、地域の方々と交流を図れるような議題提案をさせて頂いている。又出席頂いた方々の意見・アドバイスを頂き次回までに改善したり、変更などして取り入れさせて頂いている。	コロナ禍により開催を中止していたが、感染者が減少した5月には家族、区長、民生委員、あんしんセンター、市の担当者出席により開催し、事業所の状況等を報告し、意見交換をすることができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などの際、必ず市職員の方も出席頂き、アドバイスやご意見を積極的に伺い、今までに何度か改善や取り入れをさせて頂いている。	運営推進会議の際、担当者より意見や提案があれば受け入れ、連携を図っている。ケアマネジャーが介護保険の更新代行や認定調査の立会いをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時には身体拘束の研修を必ず行い、具体的にどの様な行為が拘束の対象となるのかを学習して、身体拘束「0」を目指しそれに、努めている。又職場会議にてスピーチロックについても学習しお互いに注意しあっている。	玄関は開錠し、居室の窓も開けている。職場会議で身体拘束をしないケアについて話し合ったり、リモートで身体拘束廃止に関する研究会を行い、身体拘束「0」を目指したケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時に虐待に関する研修を必ず行っている。虐待発見時の通報義務についても、福祉に携わる者として常に心がけ皆で確認している。職場会議などで言葉使いについても話している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時に制度の説明をし、利用の有無を確認している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前より、十分な説明をさせて頂いている。入居後も随時話し合いを持ち、解約時も段階を経て行っている。又、改定の際も十分に説明させて頂き同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で運営推進会議や面会もできないので、月一回の支払いで来所いただいた時やメール、電話等でご家族様などから意見・ご感想を伺い、記録し、改善・変更できる点は早急に反映している。又、普段からご家族様とも気軽に話せる環境作りを心がけている。	電話やメールで、また利用料の支払い時に家族にはできるだけ利用者の日常の様子を知らせ、それに対して家族が意見や要望等何でも話せる雰囲気作りを心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回の職場会議時、職員に自由に意見出来る時間を設けたり、日々の業務の中で一人ひとりの職員から意見や提案を聞く機会を設ける様に心がけている。改善すべき点は改善し、相互理解出来る様に努めている。	月1回の職場会議やカンファレンス時に職員から意見や提案がある。コロナ感染対策として予防の徹底や利用者に対する臨機応変なケアを職員間で共有し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員が提案や意見を発言しやすい雰囲気作りを心がけ、コミュニケーションをはかる。又、年に数回、職員一人一人と面談を行い、仕事に関する事や、その他希望や不安な事等、話を聞き、環境改善の提案も聞き入れて改善整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の年間計画を立て、資格受験等のポスターを貼り、参加推進を働きかけている。新人職員に対してもマンツーマン体制で丁寧に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県地域密着型サービス連絡協議会へ加入し、コロナ禍で外部との交流はできないが、リモート研修等で管理者や職員が同業者と交流を持ち意見交換をする機会がある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談を頂いた後、必ずご本人と面接を実施し、不安な事や要望等聞くように努めている。その際なるべくご自宅へ伺い、ご本人の生活環境なども見せて頂き、理解を深められる様努めている。入居後も個別で外出するなどし話易い環境を作りコミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労やサービス利用状況等、経緯について、ゆっくりお話を伺いながら関係を築いていける様にしている。来所時にも色々なお話をさせて頂いたり、ご家族と外出する機会を設けたりし、信頼関係が持てる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思いや状況などを確認し、何がこの方にとって必要であるかを見極め、可能な限り柔軟な対応が出来るように努めている。ご家族が納得していただけるまで話し合いの時間を持つ。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たず、長く生きてこられた人生の先輩である事を常に心に留め、昔の風習や料理の味付けを教えて頂いたり、手伝いや片付けをして頂いたり、又、雑巾や利用者の衣類のほつれを縫って頂いたり、洗濯物干しや畳むなど出来る事はやって頂き、共に協力しながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会や外出の機会が減っているが、利用者様の支援には、ご家族の協力が必要不可欠なので電話やメール、また月に一度支払に事務所に来所いただき、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有をし、またご家族の思いに寄り添い、ご家族との信頼関係を築ける様努め、利用者様の支援にあたっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ前は馴染みの方達との面会や外出など実施したり、または地域の行事への参加や買物や外出などをし馴染みの場所との関係が途切れない様支援していたが、コロナ禍はほとんど実施できていない。その中でも個々で行きたい場所に行ける様支援している。	感染状況によって玄関先で家族と面会ができるよう工夫し、関係性の継続に取り組んでいる。また、折り紙やカラオケ、毎日夕方歌を唄う、毎朝新聞を読む等、習慣や趣味の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席を配慮したり、全員集まる時間には共通の話題を提供したり、歌を唄ったりしている。なかなかお話し出来ない方に寄り添い話しかけながら、穏やかに生活出来る様努めている。又、利用者全員で出来るレクリエーションや工作などを行ない、協力をして行なう事で達成感が得られる様工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した方とも、遊びに来て頂ける様声掛けしたり、思い出の写真を差し上げたり、通夜や葬儀にも参加させて頂いている。又、電話をし状況把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、話易い雰囲気作りに努めたり、声掛けをして、意向の把握に努めている。その他ご家族からも話を伺ったり、情報を頂いている。	利用者には日常的に「どうですか。」と尋ねたり、利用者の様子から思いや意向を推し測り、把握に努めている。また、家族との会話を通して、利用者の思いを把握するよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前通っていた他の施設の方に話を伺ったり、ご本人からも伺い、ご家族が来所の際にも、少しずつ伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活ペースに合わせ、その中で出来る事に注目し、その方の全体の把握に努めている。又、利用者の訴えには耳を傾け、心身状態が把握出来る様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のモニタリングでケアマネと職員が話し合い、ご本人がより良く生活して頂ける様、ご本人・ご家族のご要望、医師等の意見を含め、普段の生活記録や様子など総合的に反映し、介護計画を作成している。	介護計画は毎月ケアマネジャー、職員がモニタリングをし、3ヶ月ごとに見直しをすることになっているが、個別のケア記録や職員からの意見等で随時見直しをし、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア記録、連絡ノートで個々の状態変化等記録し申し送りなどで情報を共有している。職場会議やモニタリング時、職員同士で話し合い、介護計画の見直し等に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の事情や環境、利用者様の心身の状態等の変化など、その時々で違う為、ご家族と良く話し合ったり、モニタリング時にその時々状況を話し合い、柔軟で多様化したサービスに対応出来る様取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為地域との交流が中止となっているので施設内で楽しめるレクリエーションなどを職員が中心となり楽しめる工夫をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望を大切にし、入居時に主治医の選択をして頂いている。一人ひとりの受診記録を作成し、全職員が情報を共有している。又、主治医に月2回往診に来て頂き、利用者様・職員ともコミュニケーションをはかり関係を築いたり、緊急時、急変時にも対応出来る様24時間体制を取	入居の際、かかりつけ医か協力医の選択ができることを説明している。協力医は月2回の往診と緊急時の対応として24時間体制を取っている。利用者の希望に沿って協力医に変更したこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の体調把握に努め記録し、職員同士が情報を共有して小さな変化にも対応出来る様努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、管理者、ケアマネが情報提供を行ない、ご家族も含め三者一体となり、入院ダメージの軽減に努めている。又、入院中も医師や相談員と話をする機会を持ち、退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、ご家族と重度化や終末期に向けて事業所で出来る範囲の事を説明させて頂き、方針の相談を行ない「意思確認書」を作成して頂いている。又、その時は担当医師と出来る限り密に相談し、ご本人の望まれる終末期のあり方の再確認をご家族と行なっている。	看取りの事例はあり、家族から希望があれば支援している。看取りに入る際は、主治医の見解を家族に説明している。家族の希望による付添いや親戚の面会を支援し、看取った事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対策マニュアルを作成し、研修を行っている。救急車要請の具体的レベルを提示し、緊急時落ち着いて対応出来る様に日常的に意識している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時マニュアル、風水害時マニュアルを作成し、常に非常時をシミュレーションしながら、日常業務を行っている。又、区長や民生委員の方との連携も依頼し、関係を築いている。又、月に一度避難訓練を実施し、その場で避難方法や不備な点等を話し合っている。	夜間の地震、日中の火災等を想定した年2回の総合避難訓練と毎月自主訓練を実施している。ハザードマップによる災害はないが、風水害用のマニュアルを作成し、夜勤室に設置している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合った対応を心がけている。人生の先輩である事を忘れず尊敬の気持ちを持ち、言葉かけ、呼び方など配慮している。	年長者である利用者に対して大きな声や馴れ馴れしさがあつた場合は、管理者、職員間で注意し合っている。入室の際はノックをする等プライバシーを尊重し、利用者間の相性にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員と利用者が気軽に話せる雰囲気作りに努め、希望や要望が言い易い様に、一人ひとりに合った声掛けを心がけている。又、返答のゆっくりな方は、返答があるまで待ち、表情を読み取るなど、ご本人の自己決定をゆっくり待つように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の一日の流れはあるが、その方のペースを最優先とし、無理強いせず、その方の気持ちに沿った支援を心がけている。夕方に自由な時間を設け、ご自分のやりたい事、編み物、カラオケ、読書、塗り絵等をして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度散髪をしたり、化粧水等購入し入浴後に付けて頂いたり、髪に編み込みしておしゃれをしている。又お誕生日会の時など女性の方には化粧をしていただき、ネックレス等付けて特別感を出してお祝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物をリクエストして頂きメニューに反映している。食事作り、テーブル拭き、食器片付け等出来る方には手伝って頂いている。又、利用者様とおやつと一緒に作ったりしている。又、お昼の時間は職員も一緒にお茶をしながら会話を楽しんだり、おやつの中には好きな飲み物を選択して頂き提供している。週一回ですが、朝・昼・夕食をスタッフが一緒に食べている。	食事は届いた食材を食事メニューに従って調理し提供している。伝統食、季節の料理の他、誕生日には利用者が希望する好きな物を用意している。職員は月1回3食を検食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医の先生と相談し、利用者様ごとに栄養面を考慮し食事量を調整している。(食事・水分摂取量を毎日記録している)入浴後にはアクエリアスを必ず飲んで頂き脱水予防に努め、又、水分をあまり摂らない方には、先生からお話し頂いたり、好みの飲み物を提供し水分補給をして頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを実施し夜間は義歯を預かり消毒している。ご自分で磨いた後、職員が確認する様に心がけている。自分で磨けない方は職員がお手伝いしながら磨いている。又、歯科医の往診でご指導頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり排泄や水分摂取量を記録し、パターンを把握する様心がけている。把握により声掛けのタイミングをつかみ、出来るだけ失敗を無くす為、時間をみてトイレ誘導し排泄して頂ける様支援している。	利用者がいつまでもトイレで排泄できるよう自立支援をしている。排泄や水分摂取量の記録に基づいて、食事前等ある程度時間を決めてトイレ誘導している。自立者であっても排泄後は確認している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のメニューに配慮し、ひじき、根菜類など食物繊維を多く摂る様にしている。毎日午前、午後と体を動かす支援をしたり、散歩に行ったりし自然排泄出来る様取り組んでいる。又、便秘気味の方は主治医と相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節に合わせ菖蒲湯や柚子湯など工夫したりしている。入浴を拒否される方に対しては、声掛けを工夫したり時間を変えたり、個別に対応して入浴して頂いている。又、失禁時はシャワー浴をして頂いている。	入浴は1日3名とし、特に利用者の希望は聞かず実施している。寝たきりの利用者(2名)には、入浴と同様3日に1回清拭をし、失禁等で汚染した場合は陰洗をしている。	自宅にいた時のように利用者が入りたい時に入れるよう工夫し、自分の入浴のリズムを作るため、いろいろなパターンを提供し、自分で選択する機会を設けてほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や活動サイクルに合わせ、昼寝をして頂いたりソファで休んで頂いている。又、なかなか寝付けない方には職員と一緒に付き添い、話をしたり、テレビを見たり、ご本人に合わせて休息して頂ける様心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご自分で口に入れられる方には手渡し服薬確認している。その方に合った服薬方法を心がけている。又、服薬情報を職員全員がすぐ確認出来る様掲示したり、処方薬一覧ファイルを用意して把握出来る様工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った楽しみ(塗り絵・縫い物・カラオケ・折り紙・書道等)を見つけて頂き、好きな事、得意な事を把握し張り合いや喜びのある時間を過ごして頂ける様心がけ、又、作品を飾り皆さんにも見て頂ける様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩へ誘い気分転換して頂いている。又個人的に、利用者様と買い物に出かけたり、お茶菓子等持ってお花見に出かけたりしている。	午後涼しくなる時間を見計らって外出している。個別で近くのコンビニへ買い物に行ったり、一人ずつバラ園に出かけているが、利用者には個人差があるため、希望に沿った外出支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお金を預かりご本人の希望で買い物が出来る様支援している。職員と一緒に買い物に行った時は見守りながら本人に支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望される方には、こちらから電話をかけてお話して頂いている。利用者様より職員へ手紙が書きたいと希望あり家族へも希望あれば何時でも書けるように用意しておく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール外のデッキに洗濯物を干したり、キッチンも対面式で料理の匂いなど生活観を感じて頂いている。テーブルには庭で摘んできた花を飾ったり、季節の行事に合わせて作品作りをして楽しんで頂き、季節感を出すようにしている。又、鯉のぼりや七夕飾りなどを飾り、季節感を出したり、庭には季節に花を植えてあり、家庭菜園を毎年行い収穫を楽しんでいる。	ホールにはテレビ、ソファを置き寛ぎの空間になっている。また、空気清浄機を使用したり、掃除の際1時間程窓を開け換気をしている。季節感のある飾り物や廊下には行事の写真を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にスペースを分けたり、椅子やソファを置いて思い思いに座って頂いている。食事の時のテーブルも仲の良い方同士を隣にするなど、共通の話題を提供しお話ししやすい環境づくりに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用していた馴染みの物やテレビを持ってきて頂ける様ご家族にお願いをしたり、カレンダーや家族写真を貼ったり、お好きな花を飾っている。筆笥の整理なども一緒に行っている。	自宅で使用していた物をそのまま持込み、大人らしい雰囲気の居室作りを支援している。整容を自分でできる利用者は化粧品や鏡を置いている。換気を心がけ、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	外出時、座って靴を履ける様に玄関にイスを置いたり、ご自分の部屋が分かる様に大きな文字の名前を掲示している。又、料理が出来る方はスタッフと一緒に食事作りをしたり、他の人にも味見やお皿拭き、縫い物など出来る事をお願いしている。		